

2022年度全体報告会 会長挨拶

全体報告会に参加していただきありがとうございます。

大津市全体の課題を共有する、そのための報告会ということですが、この数年の間に、この2~3年のことですけれども、コロナの影響で、様々な制限のある中で、利用者さんの生活支援に尽力いただいて本当にありがたいと思っております。

その中で、この2年の間にクラスターになったところが5か所あります。どこも重度の方のところが多いため、やっぱり密着系、職員と利用者さんの距離が近いというところで、拡がりなかなか抑止できないというところかな、というふうに思っています。

いくつか、環境整備をすることで拡がりを止められたという報告もありますので、また、このコロナ禍が一定収まったところで、それぞれの経験を持ち寄りながら、次の感染症などに対応出来るような話し合いもしなければならないなと思っています。

特に、私たちの法人でやっているところの入所のところ。これは県内5つの入所施設のクラスターがありますけれども、どこもギリギリ。職員の配置と言いますか、陽性の人たちを病院なり陽性の人たちが行くところが用意されている状況ではないので、通所のところでは、ある程度ご家族にご協力いただいて閉所等の対応ができますけれども、入所やグループホームのところで発生すると、陽性の人達も一定の枠の中で見ないといけない。同じ敷地内に陽性者のためのレッドゾーンと感染していない人たちのグリーンゾーンと、濃厚接触の人達のゾーンと、ゾーニングだけでも最低3つ、陽性から抜けた人たちのゾーンも作るとすると、4つのゾーンを作らないといけない。それに対応する職員集団を作らないといけない、また、できるだけそのゾーンに入る人を固定するとなってくると、到底一つの施設の職員集団だけは賄えないという状況が起こります。それを地域全体でカバーしていく、法人の中、それから法人の外含めてカバーする。直接的に間接的になりますけれども、その体系が出来ないとしんどいなと思います。今も守山の方でクラスターが発生しているようですし、まだこれからもクラスターは続くんだろうと思っています。

大津市全体の状況のここ数年、特に南北の状況の格差みたいなことが言われて久しいという感じがしています。特に北部のところの日中一時であるとかショートステイ等の整備が急がれるところでもありますけれども、まだそこに手がつかないというところを解消しないといけない、というところにあります。

それに比べて比較的サービスの調整・整備が進んでいる南部のところでも、これから4年5年の間に70床くらいの生活介護の希望者がいるという、70床くらいの施設整備をしないといけない、少なくとも70人くらいの人達に向けた地域作りをしないといけないという課題があります。

ただ、今必要な部分というのは、量を作っていくというのも勿論必要なことですが、今どちらかというと、生きてる事業に対しての質をどうやって担保するのか、利用者にとってより必要な、利用者にとって有用な形の事業にどうして全体の質を上げていくのかということが、自立支援会等に問われていることではないのかと思っています。

この頃のことですから、様々な事業に色んなところから事業者の方達が参加してくれています。参加してくれている人たちの思いというのは、動機は色んな事があると思いますが、少なくとも福祉の仕事の中で利用者さんにより良い生活の確保に尽力されている、そういう思いは共通されているんだろうと思っています。ただその時に、経験であるとか、事実と言うか少なくとも利用者さんの育ちの視点をしっかり受け止めて、そういう人にふさわしい環境を用意するというところに未だ長けておられない方も事業に参加して来られる。そういう人たちのことを排除するのではなく、一緒に地域を作っていくという育ち合う関係、それから支援しあうという関係というようなことが求められるのではないかなというふうに思っています。

状況的には、新たに参加される方の質の担保ということがありますが、地域全体で見た時に、より重度で医療的な支援が必要な方、強度の行動障害がある方という視点と共に、高齢の障害の人達にどう対応するのか、ということがあります。

高齢の障害というイメージというのは、入所に課題としてありますよ、通所に課題としてありますよ、ということではなくて地域全体の課題なんだろうと思っています。

数年前、数十年前にいわれていた障害の方達が平均寿命がそんなに長くないよ、ということはもう既に全く意味の無い議論になって、障害を持っておられる方も共に高齢化していく、終末期といいますか看取りの状況をどう作っていくのかということが地域全体の課題としてあるんだろうと思っています。その地域全体の課題に対して福祉のところからのアプローチだけではなくて、高齢の方たちとの協同等も積極的に求めていくべきなのかなというふうに考えています。自分たちのテリトリーの中でどうするかではなくて、利用者さん中心に、その人らしい生活を地域の中で実現していく、それは、育ち合う関係の中から終末期まで一生を通しての地域作りであろうと思っています。一生を通じての一番最後のところも非常に大切なところですし、みんなでその部分についての議論を進めていけたらと思います。

今日は、結構長い時間になるとは思いますけれども、是非聞いていただいてまた議論を進めていけたらと思います。ありがとうございます。